『國民新報』1940年5月5日

國民の保健と精神[[1]](#footnote-1)

　はであります。はのであり、にのであつてが[ら] にしなければならぬのでありますが、に五二日から八までの一をめて、のにするをくしよう といふのであります。だからはこののにふやうに、の、の、に一ののになる、ののためるだけのをうべきであります。

　一にのためになのは、はのによつてもされ、もされるといふであります。それはのになのあること、ちは六十、は五十、わがは四十といふにのさがふこと、また、そのののためのやのによつて、そのがのびること、へばデンマークではデンマークの一によつて のが八年もびたといふことなどで、であります。日のにけるはのそれよりも、ずつとちて三十年ださうでありますが、がしてのためにさへすれば、くものたる六十年までにをばすことがるのがで、それはのののにあたるであります。

　しからばにすればこのはせられるかといふに、それは一にしていへば、のであります。といふのは、にふやうにすることでありまして、もつとにへば、やのをにしすることであります。そのでも、のからまして、やにはをするものがくあるのでありますし、になつたのにもまだまだな、なが々されてゐるのは、にでありかしいことであるとはねばなりませぬ。にののとなる のにいてりであります。年々萬のがののになつてんでき、またなぬまでもなとなつて くのであります。

　二にののためになのはのであります。と。まづのらかでないものはにかゝりい、[精神が] のとなることはもがすることで ありませう。『清心寡慾は長生の術』といふがありますが、のからしましてもとのもなたるはのをとするのであります。いをもつてゐるものがいでありながら、くをつのはこのためであります。

　には にのちのさによるのでありまして、にをくとか、をするとか、のをすやうなでは、のはげられるものではありませぬ。すべてのはわがなりなり、なるわがなりといふがあつてこそ、はにされるのであります。

　はくは年はよりも、年は年よりもをなところにげませう。

1. この文章は一部「わかちがき」がなされている。 [↑](#footnote-ref-1)